授業科目 小児看護学方法論Ⅱ	担当講師名 専任教員名	単位数 1	時間数 30	履修年次・前 /後 2年次/前期
講義のねらい	1 あらゆる健康レベル・発達段階にある小児とその家族に対し、安心で安全な看護が実践できる基礎的能力を身につける。 2 健康障害を持つ小児と家族の看護過程の展開をとおして、具体的な看護援助について学ぶ。			
授業形態	講義・演習			担当及び時間
講義内容	1 症状別看護 1）主な症状のアセスメントと看護 2 検査・処置を受ける小児の看護 1）検査・処置の前・中・後の観察と安全・安楽への援助 2）小児の薬物動態と薬用量の決定 3）検体採取（採血、採尿、採便） 4）骨髄穿刺、腰椎穿刺 5）罨法（温罨法、冷罨法） 6）与薬、注射、輸液療法 7）経管栄養 8）吸引（鼻腔、口腔、咽頭内、気管内） 9）酸素療法 10）吸入療法 3 小児看護に必要な看護技術 1）発達段階に応じたプレパレーション 2）与薬法 3）輸液療法 4 小児の看護過程 健康障害のある小児と家族の特徴をふまえた看護過程展開			10 6 4 10
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学1 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学2 （医学書院）			
参考文献	1 こどもの病気の地図帳 （講談社） 1 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント （学研） 1 小児看護ビジュアルナーシング（学研メディカル秀潤社） 1 NANDA-I 看護診断 定義と分類(医学書院)			
評価方法	終講試験 1・3:50 点 2:50 点 合計 100 点 終講試験 4:100 点			
備考欄	演習は実習室で、演習内容に応じて、白衣や小児の安心につながるエプロンを着用して実施する 看護過程の展開時の記録は小児看護学実習時の記録用紙を用いる 教員とのコンタクトは授業終了後又は終講時に案内する			